農と食を学ぶ

ほどがや☆元気村

開村 10 周年記念誌

保土ケ谷区役所地域振興課
ほどがや☆元気村実行委員会

目　次

ほどがや☆元気村 10 周年を迎えて ---------- 1
ほどがや☆元気村村長　泉 俊郎
ほどがや☆元気村指導者　三村 敦夫
保土ケ谷区長　菅井 忠彦

ほどがや☆元気村とは ---------- 3
事業開始の経緯
活動について
ほどがや☆元気村の思い出
初代村長　篠崎 顕一
２代目村長　瀬尾 宏

お祝いのことば ---------- 5
川島小学校校長　下畝 直人
JA 横浜保土ケ谷支店支店長　八ッ橋 浩之
北部農政事務所　皆川 美由紀

どろんこ教室紹介 ---------- 6
どろんこ教室とは
グループリーダーの想い
どろんこ教室卒業生の思い出

ほどがや☆元気村実行委員の活動 ---------- 15

10 年目の実行委員にインタビュー ---------- 18

ほどがや☆元気村の活動状況 ---------- 21

伝統農法によるお米作り ---------- 22

ほどがや☆元気村 10 周年を迎えて

ご挨拶

ほどがや☆元気村
村長　泉 俊郎

ほどがや☆元気村が 10 周年を迎えたこと、元気村村長として、本当にうれしく思っております。これは三村指導者・元気村実行委員の熱き指導、地域の皆様・保土ケ谷区地域振興課のバックアップが大きな要因です。ほどがや☆元気村のテーマ『農と食の大切さ』は永遠のテーマとして、今後とも引き継いでいかなければなりません。また、保土ケ谷区に唯一残る水田、6 月のホタル出現など道路から見える自然は、区の宝です。

どろんこ教室では 5 月の代かき時、普段泥遊びをしたことがない子どもたちが田んぼに入ります。最初は恐る恐る、その後、子どもたちはリレーなどで田んぼを飛び跳ねます。勿論、着衣は泥だらけ・・・そして 12 月の大収穫祭では、子どもたちが育てたお米で餅つきをし、みんなでいただきます。“農と食の大切さを知る”子どもたちの将来が楽しみです。

ほどがや☆元気村 10 周年を顧みて

ほどがや☆元気村農業指導者　　三村 敦夫

平成 20 年に入り、保土ケ谷区役所地域振興課の担当者より、保土ケ谷区内唯一の水田を利用して、区内の子どもたちに稲作りを体験させてもらえないか、との話があり、私は最初、そのような事業ができるのか、不安でお断りをしましたが、その後再三お話があり承諾することにしました。田んぼ、畑のまわりは荒れはて、子どもたちがすぐに農業体験ができる状態ではなく、話が進む中、整備していただきました。最初は稲作りだけの予定でしたが、畑で何か野菜もできないかと相談があり、手がかからないジャガイモ、サツマイモ等を作ることになり、1 年間の事業として、平成 21 年 4 月より、始めることになりました。当初、作業に使用する道具なども何もなく、実行委員（ボランティア）の人たちとどのような物を準備したらよいか打ち合わせ、鎌、鍬などの道具を購入しました。体験の日が近づいた頃、私に水田・畑の提供だけでなく、指導者として協力して欲しいとの話があり、子どもたちと年間通して事業に協力できるか心配でしたが、実行委員の協力をいただき、平成 21 年『ほどがや☆元気村』と名称も決まりスタートすることになりました。初めは 3 年ぐらいの事業で終わりかと思いましたが、年々子どもたちの参加が増え、実行委員の積極的な活動により、10 年目を迎えることができました。

これまで保土ケ谷区役所地域振興課担当者及び実行委員の協力により、『ほどがや☆元気村』は事故なども無く、楽しく農と食の体験が出来たのではないかと思います。今後も皆様のご協力をいただき、『ほどがや☆元気村』を続けていく所存です。

ほどがや☆元気村 10 周年にあたって

保土ケ谷区長　　菅井　忠彦

「ほどがや☆元気村」は区内に残る唯一の水田という貴重な地域資源を活用し、多くの区民の皆様の交流の場として平成 21 年に開村し、このたび 10 周年を迎えることができました。

これまで多年にわたり御支援くださった方々の御尽力の賜物と存じます。特に、「ほどがや☆元気村」に農場を御提供いただき、また多くの小学生に「農と食の大切さ」を教えていただいている農業指導者の三村敦夫様と、日頃から環境整備や事業の企画・運営等に御尽力いただいている実行委員の皆様に心より感謝申し上げます。

本事業は、“農業”を介して多世代の方が交流できる大変貴重な場となっています。「どろんこ教室」に参加した子どもたちは学校や学年が異なる友人たちと回を追うごとに仲良くなっていき、互いに協力して楽しく農作業を行っています。また、その様子を見守る保護者の方々と実行委員の方々との交流の輪も育まれています。このような素晴らしい事業を今後もぜひ続けていきたいと思いますので、どうぞこれからも皆様の一層の御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

保土ケ谷区の未来を担う子どもたちの成長を願いつつ、「ほどがや☆元気村」をさらに盛り上げていきましょう。

「元気村」に10度目の春

児童56人が伝統農業体験

保土ケ谷区内に残る唯一の水田を利用して子ども向けの伝統農業体験教室などを行っている川島町の「ほどがや☆元気村」（泉後郎村長）で21日、1年を通じ米や野菜作りを学ぶ「どろんこ教室」の開講式が行われ、小学生や関係者が鍬入れ式に臨んだ。

「子どもたちに食と農の大切さを知ってもらおう」と始まった同所での稲作体験プロジェクトは10年目を迎える。この日の開講式には今年の教室に参加する小学生56人が参加。鍬入れ式の後、牛乳パックに「まんげつ」という品種のもち米の種を蒔く作業を体験した。

牛乳パックは各家庭に持ち帰り育て、成長した苗を6月上旬に水田に植える計画。秋には収穫、脱穀、精米作業などを体験し、12月に「元気村米」を使い、つきあげた餅を味わう予定となっている。

水田の提供者に区功労者表彰

フィールドとなる帷子川沿いの水田は区内唯一の稲作農家・三村敦夫さんが所有しているもの。「元気村」の取り組み趣旨に賛同し、600坪の田んぼのうち100坪ほどを毎年、子どもたちの稲作体験の場として提供している。この日の開講式では10年間にわたる協力に対し、菅井忠彦区長から「区功労者表彰」が贈られた。三村さんは、会を代表して頂いた賞。子どもたちが農業に関心を持つきっかけになれば嬉しい」と話した。

鍬入れ式のようす（写真上）・菅井区長から区功労者表彰を受ける三村さん（同右）

タウンニュース（保土ケ谷区版）
2018 年 4 月 26 日号№..558 より掲載

ほどがや☆元気村とは

事業開始の経緯

平成18～19年度の２年間に実施された、田植えや稲刈りなどの体験を行う「ほどがや自然塾（生涯学級）」の講座終了後、多くの参加者より継続要望の声が区に寄せられました。そこで「ほどがや自然塾」運営委員の一人であった篠崎顕一様にご協力をいただきながら、“農と食の大切さを学ぶ”をテーマとした新たな事業が検討され、児童・生徒をはじめとする区民の多世代交流の場づくりと地域の担い手育成につながる計画案が出来上がりました。その後、保土ケ谷区に残る唯一の水田の所有者である三村敦夫様に土地の利用と農業指導者としての協力をご依頼し、ご了解をいただき、「ほどがや☆元気村実行委員会」を立ち上げ、平成21年度に事業が開始されました。

活動について

ほどがや☆元気村は保土ケ谷区から委託を受け、区内に唯一残る水田（3 面）で、小学生（4~6 年生）を対象に、1000 年以上続く伝統農法による米作り（もち米・満月）・畑での野菜作り（大根・ジャガイモ・サツマイモ）を行う『どろんこ教室』を開催。三村敦夫指導者と実行委員（ボランティア）が、子どもたちへ農と食の大切さを指導している。実行委員はどろんこ教室の企画・運営・準備、農場の環境整備、地域貢献活動（ハマロード・サポーター、わら細工教室の他、近隣の町内会・老人会を大収穫祭に招いている）を行っている。10 年目となる平成 30 年度、どろんこ教室参加者は保土ケ谷区内各小学校から応募のあった児童 56 名。実行委員は 34 名で、4 月から 3 月まで年間 13 回のどろんこ教室開催と、役員会・実行委員会を含め、70 日前後活動している。

ほどがや☆元気村の思い出

初代村長　篠崎 顕一

開村時の篠崎さん

平成 20 年の夏、その年の 3 月まで２年間活動してきた区の生涯学級、『ほどがや自然塾』が終わり、ほっとしていた頃でした。区役所地域振興課から連絡がありました。来年度（平成 21 年 4 月）より、子どもたちに年間を通して農業体験の事業を行いたいとのことでした。素晴らしい事業（案）に賛同したものの・・・

区役所の職員と数回、地域の農家三村敦夫さん宅を訪問し話し合い、打ち合わせを重ねました。三村さんの快諾を得て、順調にスタートが切れたと思いました。その後、事業の名称は当時、某テレビ局の人気グループによる自然・田舎の体験番組『ダッシュ村』にあやかり「ほどがやダッシュ村」に決定しました。事業計画書・募集チラシの作成に取り掛かり、一応テレビ局の了解を取ることになりましたが、局からの返事は簡単でないとのこと。急遽 2 番目の案であった「ほどがや☆元気村」に変更し、作業を急いだ思いが

あります。10 年経ち、今では保土ケ谷区内外からの散策ウオーク等の目玉になっており、多くの地域の方や地元の保育園児・幼稚園児等の見学者が立ち寄っています。今後とも地域と結びついた活動を大いに期待しています。最後に「ほどがや☆元気村」‼ 耳と心に残る良い響き『元気村』でよかった。

２代目村長　瀬尾 宏

元気村を退いて、早や数年経ちますが、普段は忘れていてもふとした瞬間に浮かんでくる情景や思い出があります。田植えの前の水田で泥んこになってはしゃぎ回り、かかし作りに熱中する子どもたち。春になると、水源の近くで白いカザグルマが咲き、初夏にはホタルが静かに舞っていました。夏が過ぎる頃、苗は成長し白く小さな花が咲き、この花は午前の作業が終わり帰る頃にはもうありませんでした。花のあまりの短さには驚きました。

ほどがや☆元気村のホタル

稲の花

稲の苗を 3 本いただいて、家の庭に植えました。秋口には少ないながらも稲穂が成長していました。この稲穂はある日、一粒もありませんでした。考えてみると、スズメが数羽庭でさえずっていました。しかしそのスズメも数年前から全く見かけなくなりました。元気村では見ることができるのでしょうか・・・。

元気村の自然の移り変わりを見ていると、一日一日が終わり、静かに新しい今が生まれて来ると感じました。これからも、元気村の活動が長く受け継がれていくことを祈ります。

開村 10 周年おめでとう！　お祝いのことば

10 周年おめでとうございます！

川島小学校校長　下畝 直人

「ほどがや☆元気村」が開村 10 周年を迎えられたとのことを心よりお慶び申し上げます。これまで「元気村」の運営にご尽力されました多くの関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、敬意を表する次第です。

さて、これからの横浜の教育は『自ら学び、社会とのつながりとともに未来を創る人』の育成を目指していきます。子どもたちは「元気村」の活動の中で伝統農法による米作りを体験し、農と食の大切さを学び、人との交流を通して成長します。「元気村」の活動は、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもたちを育てる活動です。これからも「ほどがや☆元気村」の益々のご発展と、皆様のご多幸、ご健康をお祈り申し上げます。

「ほどがや☆元気村 10 周年にあたって」

JA 横浜保土ケ谷支店
支店長　八ッ橋 浩之

「ほどがや☆元気村」の 10 周年を迎えるにあたり、心よりお慶び申し上げます。

横浜という都会の中心部に隣接する保土ケ谷区で唯一残る水田を活用して、地域の子どもたちへ稲作の種まきから収穫までという貴重な食農指導に取り組まれる村長をはじめ実行委員の皆さまの熱意に敬意を表します。開村から 10 年ということで、この教室の体験者、数百名は農作業の難しさ、収穫の喜びと収穫物への感謝の気持ちが芽生えたことと思います。今後も子どもたちの笑顔と喜びの声を活力に「ほどがや☆元気村」の益々の発展をお祈り申し上げます。

ほどがや☆元気村村民の皆様へ

北部農政事務所　皆川 美由紀

10 周年おめでとうございます。

この 10 年、村民の皆様におかれましては、大変なご苦労をされたことと思います。元気村の活動がこのように続いてきたのは、村民の皆様と水田の所有者であり、農業者である三村さんとの友情と信頼があればこそだと思います。三村さんの米作りの指導は大変わかりやすく、牛乳パックやソフトボールを使うなど、身近な材料で子供にやりやすい工夫があって、とても感心したことを覚えています。

保土ケ谷区で唯一の田んぼが良好に保全されているのは、村民の皆様の日々の地道な活動の積み重ねのたまものです。今後も是非継続していただき、未来の子どもたちに貴重な水田風景と環境を残していただきたいと思います。

どろんこ教室紹介

どろんこ教室とは

どろんこ教室は区内の小学校４年生から６年生を対象に、１年にわたって子どもに農業体験を通して農と食の大切さを知ってもらうとともに自然環境の大切さを学んでもらうプロジェクトです。

保土ケ谷区役所の委託事業としてほどがや☆元気村の田んぼと隣接する畑で、毎年50名前後の参加者が、赤、青、黄、緑、桜の5グループに分かれ、下記のスケジュールで農業体験等を行っています。

4月　開講式　お米の種まき
5月（中旬）　田おこし
5月（下旬）　代かき
6月　田植え
7月　田の草取り　ジャガイモ収穫
8月　かかし作り
9月　大根の種まき　写生
10月（上旬）　稲刈り
10月（下旬）　脱穀・籾すり・精米　サツマイモ収穫
11月　わら細工
12月　大収穫祭（餅つき）
1月　自然教室
3月　閉講式　ジャガイモ植え付け

どろんこ教室の生徒の募集は、2月に広報よこはまのほどがや区版でお知らせするとともに、チラシを作成し、区内全小学校への配布を行います。同時に実行委員の募集も行い、3月に新規加入の実行委員に対する養成講座を開催しています。どろんこ教室は、原則的に新しく応募した児童を優先しており、毎年新しい児童が参加しますが、4年生から6年生まで継続し参加した生徒もいます。開村10年目となり、一期生はすでに成人になっています。実行委員は継続して10年目となる実行委員が12名、ほとんどの実行委員が継続的に関わっています。

４月　開講式・お米の種まき

西谷地区センターに新年度の参加者とその父兄、保土ケ谷区長、JA支店長・近隣小中学校長をはじめ多数のご来賓をお迎えし、開講式を行います。式は村長・区長・三村指導者の挨拶に始まり、ご来賓からの祝辞を頂いた後、ほどがや☆元気村の説明、どろんこ教室の進め方、 参加時の注意事項・震災他天災等における対応についての説明を行います。

開講式終了後、農場に移動し、農作業の開始に先立ち鍬入れ式を行います。その後、各自が持参した牛乳パックに土を入れ、もち米の籾を25粒撒きます。更に土を被せ霧吹きで水を撒いて完成、そして川島杉山神社に豊作、安全祈願に行きます。

牛乳パックは各自持ち帰り、田植えまで自宅で大切に育ててもらいます。

鍬入れ式

お米の種まき

ほどがや☆元気村開講式 全員集合

５月（中旬）　田おこし

三本鍬で耕して土を返し、土中の虫退治や空気の供給、微生物を活性化して土を柔らかくすることで苗の根が大きく張れるようにします。子どもたちは小さい三本鍬を使いますが体力のある６年生は大人用を使います。旧来の農法による人力での農作業による大変さを体験してもらい、その後はトラクターによる現代の農作業を見学します。

５月（下旬）代かき

田おこしをした田に水を入れ、子どもたちは鍬を使わず足で土を柔らかく砕きます。
水分を含んでいても未だ固い部分が多く、同じ場所を数回踏むことで田全体が柔らかくなります。この後、ボールを使い各組によるリレー競争などで楽しみます。
最後は両端に紐を付けた角材で土の表面をならします。

田んぼに水が入ると

６月　田植え

開講式の時に牛乳パックに撒いた籾から育った苗もすっかり大きくなり、いよいよ田植えです。
実行委員はあらかじめ植える場所を示す紐を準備し、印の場所に４本の苗を鉛筆を持つように持ち、一人３列を植えます。後ろに下がりながら植えるので、下がった後はその前に踏んでいた自分の足跡を手でならします。これを繰り返し、田の端から端まで植えていきます。今回も田の中の作業なので長靴下を履いての作業です。

７月　田の草取り・ジャガイモ収穫

ジャガイモは実行委員が鍬やシャベルであらかじめ崩した畝を、子どもたちは軍手を付けた手で掘ります。６月に田植えをした苗は順調に育ち、分けつも始まっています。新しい根を出させるため両手を苗の周りに回し古い根を切ります。全部の株の根切りと草の踏み込みをして終了となります。その後、実行委員が蒸かしたジャガイモの試食！塩、マヨネーズなどで頂きます。『美味しい！』『僕､3 個目！』…農場で食べる蒸かしたばかりのイモの味は格別です。

８月　かかし作り

稲に花が咲き、実が付きだします。スズメの被害を受けないように人間に似せたかかしを作り、これを田んぼの畦に立てます。動かないので暫くすると効果が無くなりますがテグスやネットを使って更なる防御をします。

９月　大根種まき・写生

暑さも一段落した頃、大収穫祭のとん汁、参加者へのお土産として使う大根（勿論それだけではありませんが）の種まきをします。あらかじめ耕された畝にマルチが張ってあります。マルチには穴が開いていてその穴に種３粒を三角形に撒き、上に軽く土を掛けます。

一人１０個くらいの穴を担当します。

まき終わると写生になります。黄金色になってきた田んぼ、スズメを追い払うかかし、赤く咲くヒガンバナ、周りの森など写生の対象はたくさんあります。子どもたちは思い思いの場所に座り、各自が持参したクレヨン・色鉛筆で自由に描きます。

１０月（上旬）　稲刈り

稲穂も実り頭を下げ、田の水も無くなり、いよいよ稲刈りです。

稲刈り用の鎌でザクッとした音とともに稲株を土から５㎝ほどのところで切りとります。切った株は後ろに置き前に進みます。実行委員は後ろに置かれた稲株を根元の方２０㎝位で二つの束を交差させ用意した藁で結束します。結束した稲束は子どもたちが稲架（天日干しをするためのはさ）の場所に運び、実行委員が掛けていきます。掛け終わったら、上部に雨よけのシートをかけ、スズメよけのネットを被せて完了です。

10月（下旬）　脱穀・籾すり・精米

【脱穀】稲架かけをして天日干しをした稲穂は牛乳パックを用いて脱穀します。
作業に入る前に「一粒の種から幾粒の籾が収穫できたか」を観測します。

【籾すり】脱穀した籾をすり鉢に入れ、軟式野球のボールでこすり籾を外します。外れた籾殻は息を吹きかけて、すり鉢の外へ飛ばします。
【精米】籾のとれた玄米をペットボトルに入れ木の棒で突き糠を取ります。玄米と玄米をこすり合わせて糠を取るので時間がかかります。

11月　わら細工

稲穂を全て取り去ったわらを使って、わら細工を楽しみます。
昔はわらじ、ござ、俵、蓑（みの）、しめ縄等わらを使って生活用品を作っていたことを子どもたちに話し、今、ほどがや☆元気村ではリース、馬、亀、力士などを作っています。力士は作成後、お互いが土俵の上で勝負が出来るので、人気があります。各組ごとに競い、トーナメント方式で優勝の組が決まります。

12月　大収穫祭

４月に籾をまき、田植え、稲刈り等苦労して育てたお米（ほどがや☆元気村ではもち米）を川島杉山神社の境内で餅つきをしていただきます。子どもたちは子ども用の杵を振りあげ餅つきをします。
社務所の中では女性の実行委員がとん汁を作っています。
区長をはじめＪＡ支店長他多くのご来賓がお見えになり、餅つきにも参加していただいています。そして、できあがったばかりのお餅と、とん汁での食事を楽しまれます。
餅つきの順番を待つ子どもたち半数は社務所の部屋で、「ほどがやえかたりーべ」による紙芝居で保土ケ谷に伝わる民話を楽しみます。
境内に敷いたブルーシートに子どもたち全員と父兄が座り、つき立てのお餅をいただきます。
そして９月に種をまき、大きくなった大根をお土産に帰ります。

社務所の中では

１月　自然教室

毎年１月には稲作や畑の仕事が休みになり田んぼでの経験を思い起こし、また自然への理解を深めるテーマで下記のとおり自然教室を開催してきました。

【　テーマ　】	【　講　師　】
2012 年「生物多様性について」	日本大学生物資源科学部　大澤准教授
2013 年「田んぼと生きもの」	ふるさと侍従川に親しむ会　佐野真吾氏
2014 年「冬の陣ケ下渓谷を歩こう」	実行委員会
2015 年「田んぼと生きもの」	東京都市大学大学院　佐野真吾研究助手
2016 年「帷子川中流域の野鳥観察」	実行委員会　　雨天中止
2017 年「観察会」	横浜国大教育人間科学部　西栄二郎准教授
2018 年「帷子川中流域の野鳥観察」	実行委員会

野鳥観察

観察会（種や実の観察）

２月の田んぼの雪景色

３月　閉講式・ジャガイモの植え付け

１年間のどろんこ教室もこの月で最後となります。

次年度にどろんこ教室に参加する子どもたちが収穫できるように畑を耕し、畝もできたところに種イモを置き、土を被せます。

植え終わって全員集合し、村長や三村指導者の話を聞いて、各自これまで書いてきた観察記録を返してもらい、思い出の写真やお土産を貰って解散です。

一年間ご苦労様でした。

グループリーダーの想い

ボランティアのつもりで参加して5年目を迎える。行政がこれ程よい関わりをしている所も少ないのではないだろうか。子どもたちのための環境の利用の仕方として推薦されるべき内容になっていると思う。小学生には多様な経験が必要である。そのひとつとしてよい活動といえる。三村さんの元気村の田んぼは保土ケ谷区に唯一、よくも残っていた宝ともいえるものである。横浜駅から歩いて一万歩の地に湧き水を利用できる田んぼとそこに棲む蛍とカワニナや沢蟹、ホトケドジョウ、さらに植物ではカザグルマ、カライトソウ、田んぼにはホウネンエビやミジンコ類、アマガエルなどが生きてきた。都会の小学生が町中で自然と会える幸せを味わってもらいたい。

桜グループ　宗本 英治

『餅つき』がしたくて、我が子の保護者として参加したのがきっかけで、『ほどがや☆元気村』と関わるようになり6年目となりました。田んぼを通じて稲作を学ぶことは勿論面白いのですが、それよりも稲作や他の作物を育て食することで、季節の移ろいを体で感じられることが何より楽しいです。子どもたちにもこうした楽しさを少しでも感じてもらうことができれば、うれしく思います。そしてそれを次の世代に繋げていくことが大事なのだと思います。微力ではありますが、今後もそのお手伝いができれば、やはりうれしく思います。

青グループ　菅野　健太郎

ほどがや☆元気村が開村10年という節目を迎えられたことは、関係各位のご理解、ご協力・ご尽力の賜物にほかなりません。そのお蔭もあり、一年間の活動の最後には、子どもたちから「楽しかった」「農業の大変さが分かった」「食べ物を大切にしなきゃならないと思った」等という感想が聞け、ほどがや☆元気村の存在が意味あるものになっていることに喜びを感じています。今後もこの活動が継続でき、さらには『人は自然に生かされている』という思いが感じられるものに発展出来ればと考えています。

緑グループ　田邉　尚人

【ほどがや☆元気村】が始まって早10年、班長として子どもたちに教えているようで、実は教えられている毎日です。『次、三つ編みして』と言った途端、『んっ？』男子児童の動きが完全にフリーズ。シマッタ！先にやるべきことがあった…。こんなことを繰り返して約 10 年、巣立った児童は 400 人超。元気村での体験が引き金になって、将来、食に関わる道に進んでくれる若者が出てくることを期待している。それは直接の生産者でもいい、新しい耕作法を考え生産性を上げて収益を確保する、あるいは食材に関する研究者でもいい、100年間保存でき、しかも成分・味覚・食感を劣化させないコメが出来たら？　どんなに素晴らしいことか。生産者も消費者も豊作だ、凶作だと一喜一憂する必要はない。新米だ、古米だ、もなくなる。そんな青年が一人でも二人でもいい、次の世代に出てきてくれることを願って今日も子どもたちと遊んでいる。

赤グループ　夏目　守宣

どろんこ教室卒業生の思い出

僕の『どろんこ教室』の思い出はどれも楽しいものばかりです。「田おこし」では、トラクターを使った最近のものから鍬を使う伝統的なものまで体験させてくれました。
トラクターの「田おこし」は迫力があり、見ていて飽きませんでしたが、鍬の使い方を褒められた事が僕にはうれしかったです。
又、班長の一声で女型のかかしを作った事、収穫したサツマイモで作ったふかし芋が美味しかった事、「稲刈り」で褒められた事、冬に田んぼが凍ってスケートリンクのようになっていた事など、とにかく楽しいことで満ちていました。今でもよい経験ができたと思っています。

菅野　基（17 才）

思い出をイラストに
してみました。

水野 真知子（21 才）

一体、泥に長靴を奪われた経験をした人がどれだけいるでしょうか。私は小学生の時、ほどがや☆元気村で経験しました。しかも、長靴が奪われた片足は泥へダイブ。最初は触りたくなかった泥もその時から笑いのツボになりました。ただ転んだ、それだけなのにあんなにおかしかったのはそれまでにない経験でした。あれは自然と遊んだ瞬間だったのかもしれません。お米一粒には 7 人の神様がいるという話を耳にして、正直意味が分かりませんでした。しかし、稲作体験からお米が出来上がるまでの大変さを知り、お米一粒が出来るのは神がかった奇跡が起こった結果なのだと感じました。自然の面白さ、一粒の奇跡に気づけた 10 年前の貴重な体験です。

禰占 美里（21 才）

ほどがや☆元気村実行委員の活動

ほどがや☆元気村実行委員の活動は、主にどろんこ教室がスムースに進行できるように事前準備作業と農場の維持管理と地域貢献活動です。

農作業

水田

春、稲作の準備は稲作に欠かせない水の確保の為、山からの水路の床ざらえ（枯葉や堆積した土砂の撤去）で始まります。田おこし・代かきはどろんこ教室の子どもたちと協同で行い、実行委員は事前に水漏れを防ぐための畔付（くろつ）けを行います。

水路の整備

畔付け

代かき後の土ならし

４月にまいた籾が**６月**には立派な苗に成長し、いよいよ田植えです。実行委員は三村指導者に育てていただいた苗を、前日に世間話に花を咲かせながら２,３本ずつ引き抜き苗の束を作ります。又、田植えで子どもたちが真直ぐに植えられるように基準になる基線を張り、当日は基準紐を基線に合わせて移動して子どもたちと植えます。

苗の束

７月には、田んぼに生えた雑草を抜きながら、稲の活性を促すため田んぼに入り、足で稲の根を切ります。その時にはプチプチという感触が伝わります。

８月になると、稲に穂が出だし白い可愛い花が咲きます。スズメが食べないように、かかしを作る竹を準備し、かかしを作り田んぼの見張りをしてもらいます。稲穂の近くにテグスを張り鳥が寄り付くのを防ぎます。

10 月上旬、稲穂も十分実り黄金色になり、いよいよ収穫の稲刈りです。稲刈りの前に天日干しの為の稲架を作り、稲刈り後は雨に濡れないようにビニールで保護し、鳥に食べられないようにネットで覆います。10 月下旬には、脱穀・籾すり・精米を子どもたちと昔の農法スタイルで行います。

そして 12 月、収穫したもち米で杵と臼を用いて
お餅をつき収穫を祝います。

毎年好評な“とん汁”

畑

6 月にサツマイモ、9 月に大根、3 月にはジャガイモを植えます。ジャガイモ・サツマイモは子どもたちと収穫し青空の下、試食します。

お喋りしながら、サツマイモのひげ根取り

立派な大根

農場管理

年間を通じて農場内の維持管理として場内の草刈を行います。また傷んだ門扉や柵は自分たちで材料を調達し作成、取り付けします。倉庫も手狭になれば基礎から組み立て取り付けまで、みんなで楽しくワイワイ言いながら作り上げました。

取り換え前

➡

取り換え後

田の畔の草取り➡

他にも、こんな活動をしています。（地域貢献活動）

わら細工教室

稲刈り、脱穀精米が終わった秋、残ったわらを提供し、地域でわら細工教室を開催しています。
ほどがや市民活動センター・アワーズにおけるまなぶん祭り、西谷地区センター、川島地域ケアプラザ等からの依頼を受け、クリスマスに向けての「リース」、お正月に向けての「亀」や「馬」など作っています。

小学校の稲作の支援

区内小学校（川島・権太坂・上菅田・初音が丘・帷子小学校）に出向き、田おこしから稲刈りその後のわら細工まで、要望に応じてお手伝いをしています。

ハマロード・サポーター活動

2013 年より当活動をスタートしました。清掃の範囲は、ほどがや☆元気村前の道路、学校橋から鷲山橋までの約 570mの間です。道路のゴミ拾い（タバコの吸い殻、空き缶、ペットボトル他の回収）、コンクリートの目地に生えた雑草取り、道路にはみ出した木の枝刈りなどです。落ち葉の季節は清掃中にもどんどん落ちてきて、夏場は雑草の勢いがあり、ちょっと大変です。季節ごとの景観を楽しめるこの通りは散歩やランニングをしている方も多く、清掃中に「ありがとうございます」「ご苦労様です」と声をかけていただくこともしばしばあります。
ほどがや☆元気村ハマロード・サポーターは、昨年 12 月で 5 年が過ぎました。今後とも地域貢献活動として、美化清掃活動に取り組んでいきます。

*2016 年 11 月 21 日、横浜市開港記念会館で行われた『ハマロード・サポーター交流会』で、横浜市から感謝状を授与されました。

お正月あそびの会

川島保育園主催の地域交流を図るイベント、『お正月あそびの会』に毎年参加しています。元気な園児たちの「明けましておめでとうございます」の挨拶に始まるこの会では、かるた、福笑い、コマ回し、あやとりなどの室内遊びに加え、園庭では凧揚げも園児と一緒に楽しみます。
昔取った杵柄のコマ回しこそ園児に教えてあげることはできますが、他は園児の方が上手！「（こちらこそ）遊んでくれてありがとう！」の思いで終わる会です。

10年目の実行委員にインタビュー

ここに１枚の写真があります。第一期 30 数名の実行委員養成講座終了後のほどがや☆元気村田んぼ見学での集合写真です。このうち今も実行委員として活動している方が自分も含め 12 名です。他の方々へのインタビューに合わせて、私も答えてみました。

＊楽しい（うれしい）と感じたこと

大収穫祭での子どもたちの笑顔、お餅・とん汁の「美味しい・おかわり」と大きな声を聞いた時。

＊一番記憶に残る大変だったこと

7 年前の福島原発事故による稲の検査・測定が実施された事には驚きました。その他水問題、事業名についても記憶に残っています。

＊ほどがや☆元気村の魅力

子どもたちと一緒の作業、活動ができることですネ。

今後も実行委員会、区役所、三村指導者と協力、連絡を密にし、実行委員も楽しく活動できる「ほどがや☆元気村」を長く受け継がれるよう期待しています。

初代村長　篠崎 顕一

ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

保土ケ谷区で唯一の田んぼが身近にあると知り、興味をもったのがきっかけです。
N さん

谷戸の湧水が田んぼを支えている環境の良さ、ここへ定期的に立ち寄りたいという願望から。
H さん

70歳・2度目の定年を目前に次は何をしようかといろいろ探していたときに、ほどがや☆元気村実行委員養成講座募集記事の内容に興味を持ち応募した。付け加えれば亭主元気で留守が良いも参加理由の一つ。
S さん

友人とほどがや☆元気村の広報を見て一緒に始めました。
H さん

楽しいと感じることは？

元気な子どもたちと接すること、稲が育つ様子を見ること。　Hさん

子どもたちと、畑や田んぼの作業を通じて、野菜やお米の収穫をすること。　Sさん

元気な子どもたちの笑顔や、ちょっとしたイタズラは見ていて微笑ましく感じた、作業が終わって無事に元気よく父母と帰っていく姿を見る時が内心ホットする瞬間でした。　Hさん

作物が成長した姿を見ることです。　Hさん

一番記憶に残る大変だったことは何ですか？

田植えの時、泥に沈んだ足を抜けずに、よろけそうになったこと。　Hさん

初めて田んぼに入った時。　Sさん

真夏の炎天下の作業。　Hさん

餅つき大会でのこと、つきあがったお餅をちぎるのですが、最後の方は手に力が入らなくなり大変でした。　Nさん

何故、10年間続けてこられたと思いますか？

子どもとのかかわりで、自分も成長できたから。　Sさん

途中、大病をして土いじりを医者から止められたが、役員・実行委員の方々のあたたかい言葉に支えられて。　Nさん

子どもたちの天真爛漫な笑顔や実行委員の皆さんの頑張っている姿を見ていると、負けてはいられないぞという気持ちが湧いてくるからだと思う。　Hさん

活動のフイールドである田畑は農作物の成長と季節で景観が変わり、同じ活動は一年サイクルであり飽きることがない。　Sさん

ほどがや☆元気村のおすすめポイントは？（ほどがや☆元気村の魅力）

土に触れて、子どもと実行委員の皆様とのかかわりだと思う。
Ｓさん

1年間を通して身近に農作業と行事体験をすることができるのが魅力です。Ｎさん

皆で協力して田植えをし、稲が成長したのを見ること。
12月の収穫祭も楽しみです。Ｈさん

田んぼ、背後の樹林、湧き水、周辺の生き物・植物をそのまま大切にしている、三村敦夫さんと実行委員の方々の人柄の良さ。
Ｈさん

都市近郊にあるゆえ、季節ごとに代わる農景観は多くの人々の心に残り、癒しの場になっている。
Ｓさん

その他ご自由に！

何も分からずに入りましたがすべてが初体験で新鮮です。
Ｈさん

こんなに長く参加させてもらえるとは思いませんでした。
大変楽しいひと時でした。大いに感謝しております。
Ｈさん

季節毎に変わる農景観と、食の原点である米つくりの様子を垣間見る機会を人々に提供し、希望者は実行委員になり農体験に参加できるほどがや☆元気村、活動を通じ末永く現在の空間が残ることを希望する。
Ｓさん

ほどがや☆元気村開村10周年を記念して

区民ギャラリーに展示

保土ケ谷区役所1階　（2018.12.3～12.8）

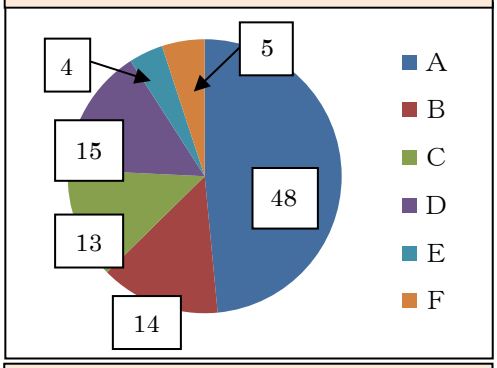
ほどがや☆元気村の活動状況（平成 25 年度～30 年度）

実行委員・D 教室生徒合わせて年間 1400 人前後が活動に参加しておりその内容は下記の通りです

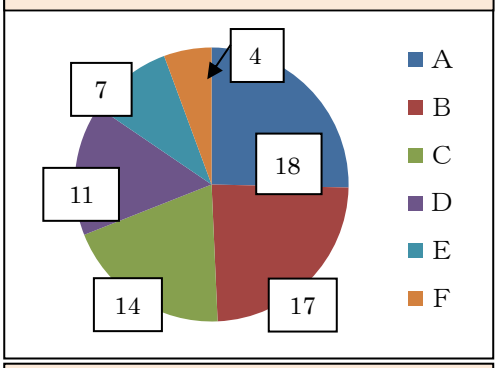
	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度 12 月現在
実行委員在籍数	41	38	30	33	33	実行委員数 34 名 D 教室生徒数 56 名 活動状況は 28・29 年度同等です
実行委員年間活動回数	99	81	81	75	71	
実行委員年間参加人数	1065	995	976	997	944	
実行委員の 1 回の活動へ参加人数（平均）	10.8	12.3	12.0	13.3	13.3	
D 教室生徒在籍数	45	40	46	50	48	
1 回の参加人数（平均）	31.5	25.8	35.3	37.0	33.2	
生徒の年間参加人数	409	335	459	481	465	
生徒の年間活動回数	13	13	13	13	14	

平成 25 年度：平成 29 年度の活動内容の項目別比較

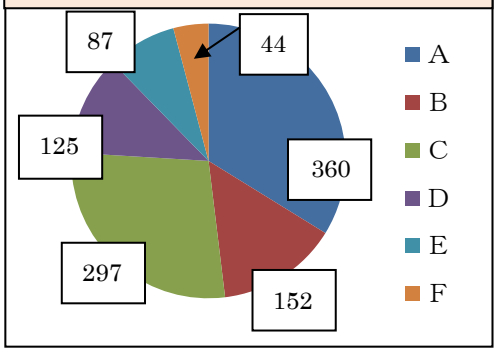
25 年度の活動回数 99 回の内容



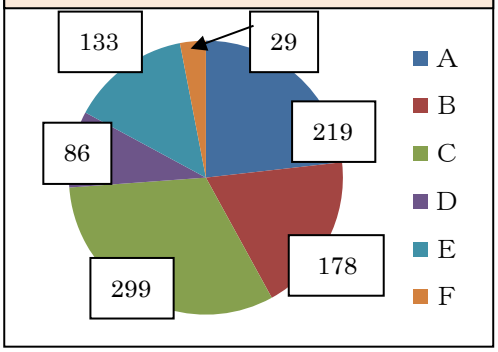
29 年度の活動回数 71 回の内容



25 年度の活動項目と年間参加人数



29 年度の活動項目と年間参加人数



凡例

- A 農場管理、作物栽培、D教室準備
- B 地域の活動、（道路清掃・わら細工教室・地域の小学校へ田植え等の指導）
- C D教室（どろんこ教室）
- D 役員会
- E 実行委員会
- F その他（実行委員養成講座、募集活動）

25 年度と 29 年度の活動内容の主な違い

活動回数が多すぎた為、野菜の栽培品種を 5 種類から 3 種類に減らした、更に栽培計画・農作業にも慣れた為、Aの回数が 48 回から 18 回に減り、Aへの 1 回の参加人数は 25 年度の 7.5 人から 12.2 人へ増えた。

Bの地域貢献活動は 14 回から 17 回に増えた。

伝統農法によるお米作り『種まきからお餅になる迄』を写真にまとめました

4月　種まき、土を1㌢掛けて灌水する

7月 草を取り根を刺激して発根を促す

5月　田を耕す

9月　黄金色に輝く田んぼ

6月　代かき 水を張って土の塊を砕く

10 月　稲刈り

6月　育った苗

10月　脱穀

6月　田植え

12月　お米を蒸かして餅つき

ほどがや☆元気村の場所

☞編集後記

ほどがや☆元気村１０周年記念誌は、２０１８年７月から編集作業に入り、８ケ月で発行に至りました。寄稿していただいた皆様、編集作業に携わった佐藤暢一郎・石井あい子元気村役員、保土ケ谷区役所地域振興課柿内浩平職員にお礼申し上げます。

ほどがや☆元気村は保土ケ谷区に唯一残る水田を利用し、三村指導者・実行委員が区内小学生に「農と食」の大切さを指導しています。また水田一帯はホタルが出るなど自然も豊かです。今後もほどがや☆元気村をさらに盛り上げていく所存です。

ほどがや☆元気村村長　泉 俊郎

ホームページ

ほどがや元気村　検索

ほどがや☆元気村 開村 10 周年記念誌
発行日　平成 31 年 2 月 24 日
発行者　保土ケ谷区役所地域振興課
　　ほどがや☆元気村実行委員会
印　刷　テクノヤマモト

ほどがや元気村